

■部会名：まちづくり部会

■部会長（有識者委員）：隼田 尚彦 委員

■市民委員：笹原 邦子 委員、佐藤 尚人 委員、瀬野 朋恵 委員、
名和 靖子 委員、深谷 亮一 委員、山崎 智行 委員

■概要

1 提言書（たたき台）のポイントについて

隼田部会長：提言書のたたき台については、言葉の使い方が適切でないところがあると思うので、皆様のご意見をいただき訂正したい。資料のマトリックスは、これまでの意見を整理したもので、「まちづくり政策提言」は、意見のすべてを網羅したもの。次の「戦略テーマ提言」というのは、前回までの皆さんの意見を集約して方向性を絞ったもの。コンパクトシティというキーワードで、駅周辺の整備をきちんと行なっていくという話と、利便性を求める人たちだけではなく、自然環境の中で農村部での生活を求める人たちもいるので、市の縁辺部に住む方たちの生活の足をどうするかという問題があった。また、市民の自発的な協働を育てていこうという意見もあった。財政が厳しい状況の中で、何でも税金に頼るのではなく、市民が行政と協働しながら自分たちでまちをつかっていこうという意見があり、もちろん、情報発信ということもこの中に含まれている。これらの大きな枠組みで戦略テーマをいくつか考えて、テーマごとに意見をまとめたものが、資料として配布した戦略テーマのマトリックス3枚である。

2 提言書（たたき台）部会長報告及びまちづくり政策提言について

[作業中の主な意見]

隼田部会長：提言書のたたき台のはじめに「部会長報告」という部分がある。後ほど皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。下から5行分の文章がやや長いので、下から4行目の後半「…魅力づくりを行う。併せて…」というように2つの文に区切りたい。

次に、「まちづくり政策提言」では、短期的な取り組みや中期的な取り組み、そして長期的な取り組みとして、マトリックスの意見の中から優先順位を考慮しながらマトリックスの短期のハードの部分から長期にわたって表にまとめたものである。戦略テーマ別にはなっておらず、また、短期と中期など、両方の時期にまたがっている意見もあり、どちらかに寄せている部分もあるが、これをベースとしてこの後に出てくる戦略テーマをまとめてある。この内容についてもご確認いただきたい。

短期のハードのところは、まず「駅周辺の活性化」である。特に野幌駅周辺は事業が進んでおり、それを前提に考えなければならないが、江別駅に関しては、スーパーを誘致しないと買い物難民が出るという意見が毎回のように出ていた。野幌駅周辺については、再開発に絡めた話で高架下と駅前エリアをどう活用していくか、あるいは駅構内や空き店舗を利用したアート通りなど、若者の力も活用して賑わいをつくれぬかといった話であった。「歩行者と自転車の安全な通行」については、大麻地区をモデル事業として自転車の通行をきちんと促すような看板表示や、自転車と歩行者の通行分離をやっていこうというものであった。「市街地のバリアフリー化」については、高齢化が進展する中で益々このバリアフリー化が重要になってくる。「農村地区の住環境整備」は、切迫している内容の話であったり、整備を実施するチャンスがあるということで、短期的に実施しても良いのではないかということであった。

短期のソフトのところでは、「地域交通の充実」について、買い物難民のための無料バスや農村地域のスクールバスの一般混乗、バス路線のスタンプラリーの実施、バス路線の接続について市民も入った現地調査の実施、また交通環境の整備ではきちんと市民が参画して進めなければ、ニーズを見い出せないであろうという話があった。「コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化」では、駅で物産展を実施したり、農作物を販売できる場所を設置することで地産地消を促したり、駅周辺の活性化ではあまり設備を要せずに、市民参加で空き店舗を利用したりなど、いろいろな形で実施できるのではないかという話が出ていた。具体的に、江別駅では農協撤退後の買い物対策、野幌駅では歩行者と自転車の分離による駅周辺の歩行スペースの確保や自転車対策の話が出ており、また、顔づくり事業に関連して賑わい創出の話も出ていた。「地域情報の発信」では、駅にイラストマップを配置したり、学生と地域住民との地域活動を広く発信ということが挙がっていた。また、札幌の隣にある江別は、自然が豊かで農業も盛んという特徴を持っているにも関わらず、あまりアピールできてないという意見があった。新規就農、あるいは街から通うという農業の新しい形態もあるのではないかという話があり、「就農支援の充実」を入れてある。これは、次のハートづくりと関わることでもある。江別市の特徴である大都市に近いベッドタウンということと、これからやっていこうとするコンパクトシティ化による中心部への集積化に対して、一方で、縁辺部は農村地域としてきちんと生活を成り立たせていかななくてはならない。都市としての江別と農村としての江別との調和を図らなければならないという意味からも、この就農支援が大事ではないかと思う。

短期のハートづくりでは、「都市と農村の調和」ということで、それぞれの特徴を活かし、森林公園や川の活用、既存の立派な公園を再整備して街中の自然を保全したら良いのではないかという意見があった。一方で、そういう面に

お金をいっぴいかけずに、市民と行政の協働による整備の可能性があるのではないかということが議論された。また、「学生の力を活かしたまちづくり」をぜひ行うべきという意見が、部会に分かれる前から出ていたが、co.ラボのつぽなどのまちづくり活動の団体があるので、その情報発信であったり、顔づくり事業で学生が参加できるプロジェクトを実施してほしいという学生からの声があった。そして、学生が楽しく過ごせるまちづくりを行うことで、そのまま卒業後も住んでもらえるのではないかというような話があった。また、学生がイベントをできるような多目的スペースがあったら良いなど、江別に住む学生たちの活動が市民の目に見えるようなまちづくりをできたら良いのではないかという議論があった。3つ目には、厳しい財政基盤の中で、「財政負担の少ない市民協働のまちづくり」を江別の強みを活かしながらやっていこうではないかという話があった。それには、わざわざ他の自治体と競争する必要があるのか、真の豊かさを感じるまちづくりができれば良いのではないか、また高齢化して札幌の利便性の良いところへ出て行ってしまふことのないような住み良いまちづくりが必要ではないか、といった意見があった。歩道を花で飾るといったちょっとした小さな緑化からでも、市民がお金をかけずに愛着あるまちづくりができるのではないかという意見もあった。

次は、中期として5年程度の取り組みであるが、ハードの部分で「コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化」ということで、短期的な取り組みではソフトの部分から展開して徐々に長期的な部分へ繋げていこうとするものである。これは、ハードの整備が短期的には難しいので、中・長期で実施してはどうかという話であった。れんがの街並みで駅周辺を整備という話がある一方で、障がい者にとってのれんが歩道は、危険なバリアになってしまうということであったため、れんがの使い方を検討しなければならない、ということがあった。具体的な話として、市内の人口が集中している大きな区域は、江別駅、野幌駅、大麻駅周辺であるが、江別駅周辺は、スーパーが撤退したり、野幌駅周辺が再開発されたのに江別駅周辺は寂しいといった話があった。そこで、江別駅周辺に、デイサービス、病院や託児所といった複合施設の整備や誘致、あるいは住宅街として整備してコンパクトシティ化ができるのではないか、という内容であった。どれをとっても駅周辺を一体的に計画・開発する必要があるのではないかという議論もあった。箱物をつくっていろいろと誘致しようと思っても、商業者がすぐ来る訳ではなく、人が定住することで商業者が自然に集まってくるのではないかという話もあった。このように民間を上手く誘導していくような政策が求められるのではないかと思う。野幌駅に関しては、いろいろと事業が進んでいるので、それらを上手く活用していきながら集積化していくことが重要であるという話が出ていた。商業施設や飲食店街の誘致をしたら良いのではないかという話がある一方で、逆にこれ以上誘致する必要はないのではない

かという意見もあった。駅周辺に人が住める環境をつくって、それによって自然に集積化する政策が望まれるのではないかと思う。大麻駅は、大学が集中していることもあって、学生が定着できるようなまちづくりが求められている。一方で、高齢化に伴って札幌へ高齢者が流出してしまっているという話もあった。「交通網の整備」では、南北をつなぐ交通網の整備に関する意見があった。

中期のソフトのところでは、「地域交通の充実」について、先ほどの「南北をつなぐ交通網の整備」とも繋がるが、市内循環バスやコミュニティバスの導入など具体的な意見がたくさん出ているが、これを実際どうするかということ、個別の計画を立てる時に検討してもらうことになり、候補としてこういう意見があるということを提言すべきである。導入しようと思っても、導入できないものもあるので、しっかりと検討していきたい。「コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化」は、中期のハードでも出ていたし、短期の所でも出ていた。中期のソフトでは、箱物ではない江別の顔を創出しないといけないのではないか、あるいは地域のニーズに合わせたまちづくりが必要ではないかという意見があった。また、「人口減少への対応」もいろいろとしなければならないという話もあった。市街地を広げる新興住宅地の開発には検討が必要であるが、高齢化に伴う住み替えで新規需要を増やすことができるのではないかという意見や豊幌地区への対応についての話があった。

中期のハードづくりでは、「住環境の整備」として通り沿いの民家の庭に桜を植樹したり、記念植樹をするというものがあった。

長期的な取り組みについては、ハードのところの「交通網の整備」でサイクリングロードの整備という意見があったが、あったら良いという程度のもので、すぐにはできないため長期に持ってきている。「コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化」では、駅周辺に高齢者の住む施設や住宅の整備が必要ではないか、また、徒歩でも買い物しやすいまちづくりをすることで、商店街もシャッター街にならずに高齢者が気軽に買い物に行けるようになるという意見があった。

長期のソフトとハードづくりの部分は、空欄になっているが、資料のマトリックスを見ていただくと分かるように、短期・中期からの継続的な取り組みとなっている。

以上の内容をベースに戦略テーマの提言を考えて、「市民協働のまちづくり」、「駅を中心としたコンパクトシティ化」、「交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応」の3つに整理してある。

3 戦略テーマ：「市民協働のまちづくり」の提言内容の検討

隼田部会長：まず、「市民協働のまちづくり」という戦略テーマの「どんな状態にしたいのか」という部分について、私なりの理解で書いた内容だが、皆さんから率直

な意見をお聞きしたい。

○ 部会長がたたき台として作成した提言内容については、どれも必要なことであり賛成である。江別市に住むということがどういうことかということを皆が認識しなければ誰も動かない。今まで市に何かしてもらうことに市民が慣れ過ぎている。自ら動いて何かをするということが大事ではないか。何か事業を行うときに、どれだけ市民の意識を集約できるかということはかなり難しいことだと思うが、市民をどうやって動かすか、あるいは今回の会議でどれだけ市民に分かってもらえるように情報発信できるかが、大事なことではないか。

隼田部会長：ここでは、どんな状態にしたいかという理想を書いている。まずは手軽で気軽なまちづくり活動を通じて、皆を慣れさせることが重要となってくる。6割の市民が自治会活動に参加している。歩道に花を植えたりなど、お金があまりかからずに皆が参加できる小さな活動をたくさん行ない、参加する人が増えていって、そういう人たちがさらに活動を広げて別な人を呼び込むことができると良い。今回は総合計画の策定なので10年間の中でそういう意識を醸成していくことをするという宣言をきちんと行いたい。具体的な方策については、「戦略テーマ実現への方策」というところで、足りない部分もあるので、皆さんのご意見を伺いたい。

○ 「立案背景」のところで、市民活動団体の活動に積極的に関与している市民が1割程度いると書いてあるが、人口が10万人いたら1割で1万人である。1万人というすごい数である。また、自治会活動に参加している市民の割合が6割ということは、10万人いたら6万人である。数としてはかなり多い。事業のハードルを下げ参加しやすくして、参加する市民をさらに増やすことが大事なことであると思う。また、参加できそうな市民に対して、十分に情報が周知されているかどうかということも大切である。

隼田部会長：人口190万人の札幌市で、1,000人のワークショップをやろうとした時に、1,000人集まらなかった。江別の市民参加の割合は大きいと思う。

○ 市民の誰もが参加できれば、それはそれで確かに良いことだが、今の社会情勢なのかどうか分からないが、日々の暮らしで手一杯であるため、なかなか参加できないという市民もいる。

隼田部会長：それは重要なことである。一般的に市民参加に投入できるパワーが、年を追うごとに減少してきているのは確かである。30代や40代で家庭を持っている人などに顕著で、自分の仕事の他に家庭のことや子どもの相手をしなければならぬのが現実であって、後ろめたい気持ちがある一方で、まちづくりに参加できないという人がいる。しかし、自分の住んでいる地域で子どもを巻き込んだイベントなどがあると、子どもの相手をするための道具としてそういう行事を利用できるかもしれない。また、住民すべてが日中働いている訳ではないので、お年寄りのパワーをなるべく借りながらまちづくりをしていくことも必要である。その思いを「元気な高齢者の役割を作り出し」という表現に込めてた

たき台に記載してある。

○ 大麻・文京台地域の夏祭りでは、子どもや大学生、年配の方々が多数参加しており、成功事例だと思う。こういう多くの世代が参加できる仕組みを考えていくことが、大事ではないかと思う。

○ 野幌駅前の市民まつりでは、商店街が積極的に関わっており、仮装盆踊りでは、大学生の他に市外からも参加している。イベントの開催にあたっては、どういう形で市民に参加してもらうかということが大事なことだと思う。

隼田部会長：市民協働を楽しくやっていくという素地が、江別にはあるのだと思う。具体的にどういうことをやるかという例は、たくさん挙げておいた方が良いと思う。

○ 雇用の中心が札幌にある現状では、江別への愛着だけで定住する可能性はあるのだろうか。

隼田部会長：札幌の中央区の外れや南区に住むよりは、江別の駅周辺に住んだ方が交通の便がはるかに良い。ただし、江別でも駅から離れてバスを利用するととなると、途端に不利になる。先ほどのコンパクトシティという考え方に繋がるが、この有利な面について情報をきちんと発信して分かってもらうということが大事かもしれない。

さて、「自治会活動に積極的に関与している市民は1割程度と極めて少ない」という表現を少し変えたいと思うが、どう修正したら良いか。

○ 「極めて少ない」という表現を外したら良いのではないか。

隼田部会長：「1割程度である」という表現にしたい。

—各委員了解—

隼田部会長：次に、「立案に関するデータ」の内容へ移りたい。

市民協働の事例として、いくつか挙げてある。初めの釧路の「わたぼうしの家」は、お年寄りのネットワークを地域の中で再構築した事例である。「食」という欲求を上手く活用しながら、小さな事業でも着実に事業を行なっていった例である。30 数名のボランティアがいて、運営の中心人物は当時公務員だった人で、行政でできなかったことを相当なボランティア精神で実行したものである。

2つ目は、白老町の「グランマ」で、シャッター街を何とかしようということで、「葉っぱビジネス」というものをテレビで見たという人が、白老町のまちづくり基金で視察に行き、白老にある山菜を使って始めた食堂のビジネスである。赤字ではあるが、家に独りでいるよりは良いということで、やる気のあるボランティアの人が集まって頑張っている事例。

3つ目は、恵庭のガーデニングの取り組みである。全くの自主活動であるので、通りによっては上手くいっている所とそうでない所の差が大きいようである。全員ができるわけではないが、小さな取り組みが波及して観光バスも停車するような大きなものになっていった例である。

4つ目の「co.ラボのっぽ」は、江別の大学の交流会で、学生の力を活用して商店街の活性化を検討していこうという事例である。

「総合計画、分野別計画、個別の事業の位置付け」の部分は、今回の市民会議でどこまでやったら良いかということを確認にしたいという意味で記載した。「総合計画」は、江別市をどのようなまちにしていくかという指針であるため、この市民会議でいろいろな議論がなされて、市全体の方向性が示せれば、我々の役割は終わりということになる。では、具体的にどのように事業化していくかについては、それぞれの専門の部署で個別の計画を推進していくことになる。そして、この個別の計画を踏まえて具体的で身近な事業を実施していくことになる。これらの事業が上手くいっているかどうかについては、市民参加の外部評価などで検証や見直しをしていくことになる。このような全体の流れにおいて、我々が方向性を示していく中で、なるべく具体的に施策のヒントになるような例を挙げておくと優先順位の高いものから事業が実施されていくと思われる。

これらを受けて、「戦略テーマ実現への方策」ということで短期から長期にかけて記載してある。まだまだ埋めていない項目があるので、皆さんからご意見をいただきたい。

- 農村部のことであるが、公共施設等を重点的に整備したり、あるいは農業で法人化の方向へ動いていると聞いたが、江別は農業のまちであるから、農業を大事にしていただきたい。
- 江別産の農作物は、生協や農協へ行かなければ分からない状況なので、日常生活の中で農産物に関する情報が分かるような仕組みがあればよいと思う。また、江別市内でお金が循環しなければならぬと思う。江別にただ住んでいるだけでなく、地元の物産を買うことで江別に対する意識が変わるのではないか。

隼田部会長：繋がりをどう意識するかが大事であると思う。戦略テーマ『駅を中心としたコンパクトシティ化』の「実現への方策」の短期・ソフトの部分で、農村部と中心部との地域交流ができれば良い。また、戦略テーマ『市民協働のまちづくり』の部分で農村部と中心部の繋がりを具体的に整理できれば良いと思う。

- 豊幌で作っているお米は大変美味しい。お米を作っている農家にとっては、自分たちの力だけでは情報が行き渡らないので、情報発信で苦労しているようである。

隼田部会長：短期・ソフトの部分にある「情報発信する仕組みを構築する」という情報媒体の項目の下に「地産地消などを推進する情報の発信」という文章を追加してはどうか。

—各委員了解—

隼田部会長：次に中期の部分では、市民協働の事例で挙げたような「グランマ」等のコミュニティ活動の具体策はどこにも入れていない。皆さんから意見を伺って提言に入れていこうと思っている。

○ お年寄りが多い地域ということで、積極的に地域活動する人が中心となって、大麻で活発な活動をしている団体がある。補助金がどこかから出るという話を聞いたが。

⇒ 事務局：大麻地区に「あじさい亭」という団体がある。パークゴルフの活動だけでなく、大麻東町商店街で定期的に食事会やサークル活動を行なっている。「ころば一ず」やNPO法人「ゆうゆう」など、大麻にはこのような団体が多い。サロン事業には補助金は直接出ないが、補助金が一部出ている部分もある。

隼田部会長：札幌で「はつらつシニアサロンモデル事業」というのがあり、立ち上げの3年間だけ資金を出すというもので、全額が出るわけではなく条件もある。立ち上げで軌道に乗れば、その先は自立してもらうことになる。そのようなことを江別でもできるかもしれない。

○ 江別で提案するとしても、どの年代の人を対象とするのか。大学生が卒業しても代々引き継いでいければ良いと思う。江別市では素材になるものが結構ある。学生も含めて、江別市の素材の何かと個人の能力がマッチする仕組みがあると良いのではないか。

隼田部会長：コミュニティビジネスを学生が立ち上げている例はいろいろとあるが、代替わりしていくうちに消えてしまうこともある。農村地区の人たちとプラスアルファの人たちがコラボして何かをやっていくということができるかもしれないし、その中に学生が入るのも良いと思う。総合計画策定の検討会議なので、市の計画の中で具体の色々な事業に落とししていくために、今出ている意見を書いておけば、何かの事業化に繋がる可能性がある。中期ではなく短期のところに入れられると思う。

例えば、ハートづくりのところに「地域住民のネットワークづくりや地域産業をサポートするコミュニティビジネスの活動を支援」という文章を入れてはどうだろうか。

—各委員了解—

⇒ 事務局：経済部で地域資源による製品等開発などの補助事業を持っている。まちづくり交付金など、いろいろな補助メニューはあるが、いかに事業展開していくかということになる。

隼田部会長：補助事業の可能性が十分にあるようである。具体的に挙げておくと、短期間でできる可能性がある。

⇒ 事務局：市だけの事業では、なかなか国の補助金につかない。NPO法人等の力を借りて一緒に事業をやることで補助金の対象となる。

隼田部会長：情報をたくさんもってそれを活用する力があれば、いろいろなことができる時代である。補助事業でスタートしても継続していくことがなかなか難しいので、コミュニティビジネスをはじめの場合は、あまり大きく事業展開せずきちんと収益をあげられる仕組みづくりをしなければならない。

次に、中期のソフトの部分で「市民協働の意識の向上を図るイベントなどを継続的に企画する」と記載したが、短期の「ハードルの低い手軽なイベントな

どを企画する」をさらに「向上」していくという文言にしてある。「企画する」という曖昧な表現で文章化したが、当然市民協働により市民と行政で行うため、提言書として出す時に表現の修正が必要であると思う。「イベントなどの継続的な企画を市民協働で取り組む」という表現ではどうだろうか。短期の所にも「企画する」という表現があるので、同様に変更したい。

—各委員了解—

○ 市民協働のネットワーク団体が、イオンタウン江別（元イトーヨーカドー）の2階にでき、市民協働が市民の目に見える形となってきたので良いと思う。

隼田部会長：次に、中期のソフトの二つ目として、「立案に関するデータ」の中にある「総合計画と分野別計画、個別の事業等の位置付け」に関わる部分を表現しようとして「個別の計画や事業の取り組みに関して、市民参画を促す情報発信とイベントを企画する」と記載した。ここも同じように修正すると、常に市民が参画することになるがいかがであろうか。

○ 「個別の計画や…」の前に「市の」を入れて、「市の個別の計画や…」とするべきではないか。

隼田部会長：「市の個別の計画や事業の取り組みに関して、市民参画を促す情報発信とイベントの企画を市民協働で取り組む」としたい。

—各委員了解—

隼田部会長：ハートづくりの部分で、他に何か具体の文言で入れるものがあればお聞きしたい。先ほど追加した文言について、中期や長期も継続的に行なわれることなので、短期から継続的に「地域住民のネットワークづくりや地域産業をサポートするコミュニティビジネスの活動を支援」というのを入れることにしたい。

—各委員了解—

○ ソフトやハートづくりの部分については、内容によっては、すぐにできるものもあつたり、長期にわたるものもあつたりするが、継続的に行なっていくものだと思う。

隼田部会長：ハートづくりの部分は重要なところだと思うが、具体的な文章を入れておらず抜け落ちている。理念で書いても、具体化では難しいということになってしまうため、ここの部分を具体的に書いておかないと形骸化し、個別の事業から抜け落ちてしまう。皆さんのご意見を伺いたいので、検討していただきたい。

また、戦略テーマの『駅を中心としたコンパクトシティ化』、『交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応』については、この部会をもう一度開催し、改めて検討したい。